

54 年の歴史に幕を閉じる岩波神保町ビルで“現実とは異なる世界”へ  
10 階ミニシアター最後の 1 ヶ月を舞台に観客の選択で物語が変わるイマーシブ公演

## 世界線選択ゲーム『僕たちの映画館』

8 月 1 日（土）から開催

謎の映画フィルムを巡る“歩く TRPG 体験”、  
シナリオライター・ディズム氏が脚本を担当

公式サイト URL : <https://bokutachi-no-eigakan.ya-gu-ra.com/>

僕たちの映画館 2026 製作委員会は、日本のミニシアター文化を牽引し、取り壊しが予定されている「岩波神保町ビル」の映画館を舞台に、観客自身の選択によって物語が進むイマーシブ公演、世界線選択ゲーム『僕たちの映画館』を 2026 年 8 月 1 日（土）から 8 月 31 日（月）まで開催いたします。それに伴い、7 月 1 日（水）18 時からチケット販売を開始いたします。

本作は、取り壊し直前の映画館で見つけた“謎の映画フィルム”の上映会をきっかけに、現実とは異なる世界へと迷い込む体験型エンターテインメントです。

脚本を担当するのは舞台化や映画化も果たした TRPG シナリオ『カタシロ』を生み出した TRPG シナリオライター・ディズム氏。企画・プロデュースは、物語とテクノロジーを横断する物語体験企画ユニット「檣（やぐら）」が担当しました。従来のイマーシブシアターと一味異なる、“歩く TRPG 体験”として「選択の自由と重み」を現実の空間に落とし込んだ、新しい没入体験をお届けします。

54 年の歴史を重ねた空間とキャストの迫真の演技が作り上げる 1 ヶ月限定の世界線選択ゲーム。取り壊しが予定され、本公演以降は立ち入りができなくなる「岩波神保町ビル」での深い没入感をぜひお楽しみください。



公式サイト URL : <https://bokutachi-no-eigakan.ya-gu-ra.com/>

## ■開催概要

- ・ 名称：世界線選択ゲーム 『僕たちの映画館』
  - ・ 開催期間：2026年8月1日（土）～2026年8月31日（月）
  - ・ 会場：岩波神保町ビル 10階（〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 2-1-1）
  - ・ 各回体験時間：約70分
  - ・ 定員：1回あたり最大24名
  - ・ 参加料金：平日5,000円（税込）休日5,500円（税込）
  - ・ チケット販売：7月1日（水）18時から前期期間分発売開始
  - ・ チケット販売方法：公式サイト内にて案内
  - ・ 主催団体：僕たちの映画館 2026 製作委員会
  - ・ 公式サイト：<https://bokutachi-no-eigakan.ya-gu-ra.com/>
  - ・ 公式 SNS：[https://x.com/yagura\\_gumi](https://x.com/yagura_gumi)
- ※SNSにて随時最新情報を公開いたします。

## 世界線選択ゲーム 『僕たちの映画館』ストーリー

取り壊しを控えた、歴史ある映画館。

その奥から、一本の古い映画フィルムが見つかった。

台帳に記録はない。上映日も、制作年も、監督の名もわからない。

劇場がなくなってしまう前に。

この素性の知れぬフィルムが、一度だけ上映されることになった。

上映会のために映画館に集まった"僕たち"。

スクリーンに映し出されたのは、

この現実とは少しだけ違う歩みをたどった不思議な世界だった。

そして"僕たち"は、今観ていたはずの映画の中へと導かれる――

誰の声を信じるのか。どこへ向かうのか。

もし、あなたの選択で、物語の結末を変えられるとしたら。

僕たちだけの、もうひとつの世界線へ。

## 体験コンセプト

本公演が目指したのは、従来のイマーシブシアターとは一味異なる、あなた自身が物語の分岐点となり、物語に関わっていく新しい体験。登場人物の声を聞き、"僕たち"が選択することで物語が進む「世界線選択ゲーム」です。

脚本を手掛けるディズム氏の主戦場である TRPG の真髄である“選択の自由と重み”を、現実空間でのイマーシブ体験として落とし込みました。

取り壊しを待つ映画館で行われる上映会から始まる現実とは異なる世界に迷い込む物語。登場人物たちの息遣いを感じ、彼らの声に耳を傾け、自らの足で歩みを進める。そこでのあなたの行動により世界の見え方は変貌していきます。

## 本公演の特徴

### ①歴史ある岩波神保町ビルの映画館へ”取り壊し前”に入れる最後の機会

本公演は取り壊しが予定されている岩波神保町ビルでの最後のイベントであり、足を踏み入れることのできる最後の1ヶ月間となっています。1960年代から数々の名作を上映してきた映画館から始まる本公演は、当時の雰囲気が残る建造物の中で歴史を感じながら、深い没入感を味わえるものとなっております。

### ②参加者の行動が物語に関わる新しいイマーシブ体験

本公演は集団での参加をしながら、物語の中に”自分”として巻き込まれ、世界線の選択をしていくイマーシブ体験です。体験の中で見つけたものや、キャストと話したことなど、参加者の行動や選択によって展開や結末に変化が生じていく”歩くTRPG”のようなコンテンツとなっています。ぜひ何度でもお越しください。

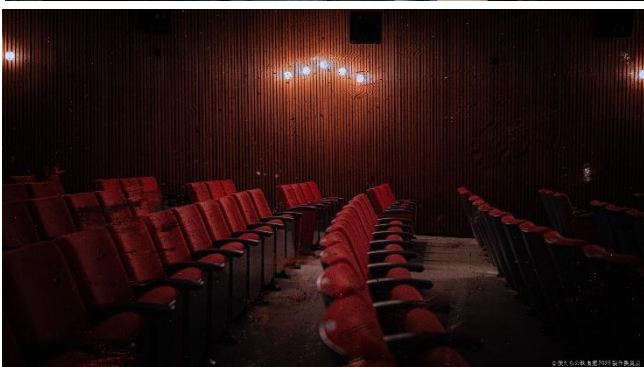
### ③『カタシロ』を生み出したTRPGシナリオライター ディズム氏によるオリジナル脚本

本公演は、舞台化・映画化もされた名作TRPGシナリオ『カタシロ』の作者であるディズム氏が脚本を担当。体験のコンセプトや世界観の設定から携わっている意欲作となっています。『カタシロ』のように、選択をしていく中で自分たち自身の姿や考え方が見えてくる醍醐味を含んだ体験をお楽しみください。

#### ■岩波神保町ビルについて

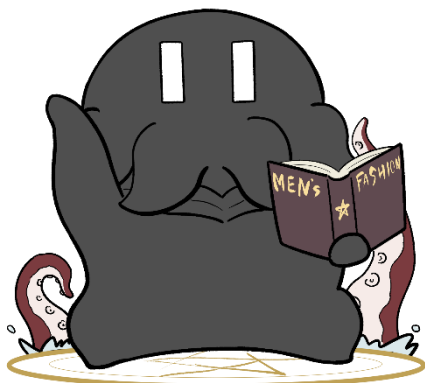
会場である岩波神保町ビルは、東京・神保町のランドマークとして半世紀以上にわたり親しまれてきた複合ビルです。1967年に竣工して以来、神保町交差点に面し出版文化の中心地・神保町を象徴する存在として多くの人々に記憶されています。現在は閉館していますが、かつては数々の世の中に埋もれた名作作品を放映するミニシアターを擁し、世界各国の優れた映画を紹介する文化発信拠点としても知られました。

今後取り壊しが予定されているため、本公演が館内に入ることのできる”最後の体験”となっています。



## 制作陣

### ■脚本：ディズム



<プロフィール>

TRPG シナリオライター、脚本・演出家、配信者。

TRPG シナリオの制作や配信活動を軸に、参加者が物語の中に入り込む体験型コンテンツのシナリオも手がける。代表作となる TRPG シナリオ『カタシロ』はネット上で大きな反響を呼び、舞台化・映画化も実現。TRPG の枠を越え、舞台、ゲーム、配信、リアルイベントなど、ジャンルを横断した活動を行っている。

主な作品・プロジェクト

- ・TRPG シナリオ『カタシロ』
- ・タクシートーク RPG『SOOPER SIGN / スーパーサイン』 / META TAXI
- ・じぶん没入体験『思考実験展』 / NO MORE Inc
- ・ミステリー舞台『AGASA』 / ノーミーツ×テレビ朝日

<コメント>

映画の中に入っても、どうせ大したことはできない。自分の人生すら自分が主人公だと思えていないのに、映画に入ったからって急に変わるわけがない。でも何かのきっかけになるような、物語を通じてようやく気付けることがあるんじゃないかと。主人公になるためのピースが落ちているんじゃないかと。そんなことを考えながらお話を作っています。

### ■企画・プロデュース：櫓

<プロフィール>

物語とテクノロジーを横断する「物語体験企画ユニット」——それが「櫓（やぐら）」です。没入型展示、謎解き、舞台演出など多様なバックグラウンドを持つメンバーが集まり、新たな体験を生み出します。場所や物に宿る記憶や声を拾い上げ、ひとつの体験へと立ち上げます。

### ■クレジット

主催 僕たちの映画館 2026 製作委員会

脚本 ディズム

企画 櫓

制作 salvo / TYO

演出 井上万葉